

平成29年度着手
令和6年度（変更第1回）

県 営 野^の依^{より} 地 区 土 地 改 良 事 業 計 画 書

（た ん 水 防 除 事 業）

愛 知 県

(目次)

第1章 目 的	1	2 事業別面積	13
第2章 地域及び地積	1	第2節 営農計画及び土地利用計画	13
第1節 地域	1	1 営農計画の概要	13
第2節 地積	1	2 土地利用区分	13
第3章 現 況	2	3 作付け方式	13
第1節 気象及び海象	2	4 生産計画	13
1 一般気象	2	5 労働改善計画	14
2 特殊気象	3	6 級地別土地利用区分	14
3 海 象	4	7 土地配分計画	14
第2節 土地状況	4	第3節 用水計画	14
1 地形、土壌及び浸食の程度	4	第4節 排水計画	14
2 土地分類	4	1 計画基準雨量	14
3 土地利用の状況	5	2 計画排水方式	14
4 土地所有の状況	5	3 計画排水系統	14
第3節 水利状況	6	4 計画排水量	14
1 用水状況	6	5 排水対策	15
2 排水状況	6	6 たん水検討	15
3 河川状況	7	第5節 道路計画	15
第4節 道路概況	7	第6節 農用地造成計画	16
第5節 地域農業の概況	8	第7節 洪水調整計画	16
1 産業別就業人口	8	第8節 干拓計画	16
2 経営耕地広狭別農業経営体数	8	第9節 農用地整備計画	16
3 主要家畜頭数	9	第10節 老朽ため池改修計画	16
4 主要作物作付状況	10	第5章 主要工事計画	16
5 農業の動向	11	第1節 用水施設	16
第6節 地域環境の概況	12	第2節 排水施設	16
第4章 一般計画	13	1 排水水門	16
第1節 事業計画の要旨	13	2 排水機	16
1 要 旨	13	3 排水路	16

4	その他排水施設	17
第3節	道路及び索道	17
第4節	農用地造成	17
第5節	洪水調整施設	17
第6節	干拓施設	17
第7節	農用地整備施設	17
第8節	老朽ため池改修施設	17
第6章	附帯工事計画	17
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	17
第8章	環境との調和への配慮	18
第9章	換地計画の概要	18
第10章	事業費の総額及び内訳	18
第11章	効 用	19
第12章	関連する事業	20
第13章	現況・計画平面図	20
1	現況計画平面図	20
2	主要構造図	20

第1章 目 的

本地区は、豊橋市の南部で、三河湾に注ぐ梅田川流域の下流部に位置する受益面積35.7haの地区である。一般県道野依植田線が中央部を横断し、北端は豊橋鉄道渥美線、中央には一般県道伊古部南栄線が縦断する交通網が整備されている。そのため、都市との結びつきが強く、都市近郊型近代農業の先進的役割を果たしている。

本地区は、県営湛水防除事業梅田川地区（S45～53）により、昭和52年に野依排水機場が設置された。しかし、近年では、地区内開発による流出量の増加及び経年劣化に起因する排水機の機能低下によって、既存の排水施設では排水能力に不足が生じている。その結果排水状況が悪化し、農地・農業用施設等に年々たん水被害が顕在化してきている。

このため、機能低下が著しい排水機場を更新整備することによりたん水被害を防止し、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
たん水防除事業	豊橋市野依町地内

(平成28)

第2節 地 積

(令和6年10月現在)

(第2表)

事 業 名	現況地目	田	畑	原野	山林	その他	計	備考
	市町村名							
たん水防除事業	豊 橋 市	28.7	0.6	—	—	6.4	35.7	1/2,500地形図より計測

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名	豊橋観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備考
観測期間	昭和51年～平成27年	5月～ 9月	10月～4月		
平均気温(℃)		23.4	10.6	15.9	
降水量	平 均(mm)	942	717	1,659	
	基準年(mm)	—	—	—	
降水日数	平 均(日)	53	55	108	
	基準年(日)	—	—	—	
根 雪 期 間	12月18日 ～ 3月14日 86日間				
無 霜 期 間	3月25日 ～11月27日 248日間				名古屋地方気象台
最 多 風 向	NW(名古屋)	最大風速 (風 向)	37.0 m/s (SSE)	最多風向発生時期 11月～ 3月	
				最大風速発生年月日 昭和34年9月26日	

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名	豊橋観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備考
観測期間	平成3年～令和5年	4月～ 9月	10月～ 3月		
平均気温(℃)		22.6	10.5	16.6	
降水量	平 均(mm)	1,091	584	1,675	
	基準年(mm)	—	—	—	
降水日数	平 均(日)	66	46	112	
	基準年(日)	—	—	—	
根 雪 期 間	—				
無 霜 期 間	—				観測値があるのは名古屋地方気象台のみ
最 多 風 向	NW(名古屋)	最大風速 (風 向)	27.1 m/s (SSW)	最多風向発生時期 10月～ 4月	
				最大風速発生年月日 平成30年9月30日	

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
豊橋観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
明治24年～平成27年																
最大日雨量 (mm)	318.0	S58. 8. 17	1/190	310.0	S49. 7. 7	1/160	267.0	S46. 8. 30	1/60	262.0	S41. 10. 12	1/50	226.0	H20. 8. 28	1/20	
最大時間雨量 (mm)	91.0	S41. 10. 12	—	89.0	S52. 7. 27	—	78.0	S62. 8. 15	—	76.0	H20. 8. 28	—	68.0	H2. 9. 14	—	
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	505.0	M38. 6. 10 ～6. 28	—	426.0	S20. 10. 2 ～10. 11	—	416.0	S25. 6. 8 ～6. 14	—	374.0	S46. 8. 25 ～9. 2	—	352.0	H20. 8. 28 ～8. 30	—	
最大連続 干天日数(日)	41	H22. 12. 29 ～H23. 2. 7	—	38	H23. 12. 9 ～H24. 1. 15	—	37	S63. 11. 25 ～12. 31	—	35	H7. 11. 30 ～12. 28	—	31	H21. 8. 12 ～9. 11	—	

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
豊橋観測所																
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
昭和51. 1. 1～ 令和5. 12. 31																
最大日雨量 (mm)	418	R5. 6. 2	1/714	318	S58. 8. 17	1/110	226	H20. 8. 28	1/16	208	R1. 10. 12	1/11	204	H16. 10. 5	1/10	5位と同雨量 H3. 9. 19
最大時間雨量 (mm)	89	S52. 7. 27	1/55	78	S62. 8. 5	1/26	76	H20. 8. 28	1/23	75	R5. 9. 11	1/21	68	H2. 9. 14	1/13	
最大4時間雨量 (mm)	183	H20. 8. 28 12:00～16:00	1/185	152	R5. 6. 2 14:00～18:00	1/43	147	H2. 9. 30 11:00～15:00	1/35	139	S52. 5. 15 5:00～9:00	1/24	116	S62. 8. 5 20:00～24:00	1/8	
最大連続雨量 (mm)	485	R3. 8. 12 ～8. 22	1/57	454	R5. 5. 29 ～6. 3	1/40	419	S58. 8. 15 ～8. 18	1/27	362	S57. 7. 31 ～8. 3	1/14	361	R2. 7. 3 ～7. 11	1/13	
最大連続 干天日数(日)	41	H22. 12. 29 ～H23. 2. 7	1/35	38	H23. 12. 9 ～H24. 1. 15	1/23	37	S63. 11. 25 ～12. 31	1/20	37	H10. 12. 9 ～1. 14	1/20	35	H7. 11. 24 ～12. 28	1/16	

3. 海 象

(第3表-3)

観測所名	三河港観測所	既往 最高 潮位 (m)	さく望 平 均 満潮位 (m)	上下弦 平 均 満潮位 (m)	平均潮位 (m)	上下弦 平 均 干潮位 (m)	さく望 平 均 干潮位 (m)	既往 最低 潮位 (m)	備考
観測期間	(平成24) 平成元年～令和3年								
実 測 値		3.15 <H21>	(1.06) 1.02	(0.24) 0.51	(-0.01) 0.10	(-0.04) -0.32	(-1.32) -0.71	-1.81 <H22>	

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑…その他								受益地標高(m)		備考
	傾斜 区分	1/1,000 以下	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8°～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
										8° ～ 10°	10° ～ 15°	小計						
た ん 水 防 除 事 業	面積 (ha)	—	28.7	—	—	—	28.7	0.6	—	—	—	—	—	—	0.6	1.71	0.50	
	比率 (%)	—	100	—	—	—	100	100	—	—	—	—	—	—	100			

(第4表-1-2)

(区)土壌名	土 壌 統 (区) 区 分 一 覧 表										面積(ha)			備 考
	土 壌 断 面								堆積様式	母材	事業名			
	色	腐植	礫層	酸化沈殿物	土 性			泥炭層 黒泥層 及びグライ層			たん水防除事業	—	計	
					表土	下層土								
					一層	二層	三層							
寺 津	青灰色	なし	なし	糸根、膜状無～含	壤質	壤質	—	作土直下からグライ層	水 積	非固結水成岩	35.7	—	35.7	
針曾根	灰色	なし	なし	糸根、膜管状無～含	壤質	壤質	—	なし	水 積	非固結水成岩				
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	35.7	—	35.7	

2. 土地分類

該当なし

(平成27) (令和6年10月現在)													
(第4表-3)													
事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						原 野	山 林	採 草 放 牧 地	そ の 他	計	備 考
		水 田	普 通 畑	牧 草 地	果 樹 園	茶 園	樹 園 地 そ の 他						
		(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
たん水防除 事業	豊 橋 市	28.7	0.6	—	—	—	—	—	—	—	6.4	35.7	

(平成27) (令和6年10月現在)						
(第4表-4)						
事業名	所有別 区分	個人有地等	国有地	県有地	市有地	計
たん水防除 事業	面 積(ha)	29.3	6.4			35.7
	受益者数 (人)	(166) 210	—			(166) 210
	筆 数(筆)	—	—			—
	権 利 関 係	—	—			—
	備 考 (関係戸数)	(166) 210	—			(166) 210

第3節 水利状況

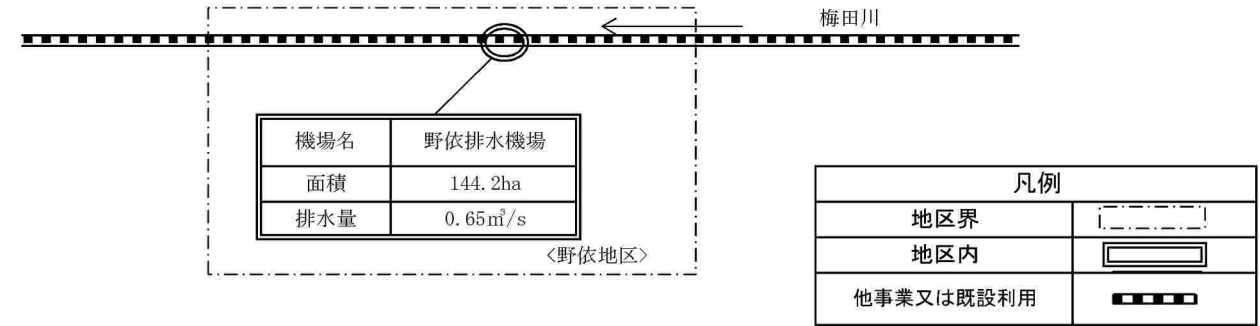
1. 用水状況

本地区の用水状況は、豊川用水の受益地内であり、野依支線から地区内のほ場整備事業によってパイプライン化された施設を経て、末端ほ場へかんがいしている。

2. 排水状況

排水は、地区内の排水路により流下し、野依排水機場により梅田川へ排水し、そこから三河湾へ流下している。

(1) 排水系統



(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項 目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m ³ /S)	現況排水能力 (m ³ /s)	備考
			500ha以上		100～500ha		100ha未満						
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
たん水防除事業	自然	排水路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		水 門	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	機械	排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		水門及び排水機	—	—	1	144.2	—	—	1	144.2	—	0.65	
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		計	—	—	1	144.2	—	—	1	144.2	—	0.65	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項 目		施設名又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年又は更新年	改修を必要 とする理由	備考
	施設名								
たん水防除事業	自然	排水路	—	—	—	—	—	—	
		水 門	—	—	—	—	—	—	
	機械	排水機	—	—	—	—	—	経年劣化による機能低下	
		水門及び排水機	1	35.7	横軸軸流	野依排水機場 φ900 1台 Q=1.51m ³ /s	S52		
		排水路及び排水機	—	—	—	—	—		
	計		1	35.7	—	—	—	—	

(3) 排水に関する被害状況

(第5表-6)

事業名	項目 施設名	排水 面積 (ha)	降水量 (mm/3日)		た ん 水 状 況				乾 湿 状 況 (ha)						平 均 減 産 量 (t)		備考
					たん水 深 (cm)	たん水 時間 (hr)	たん水 面積 (ha)	たん水量 (千m3)	田		畑		その他				
	乾								湿	乾	湿	乾	湿	作物名	減産量(t)		
たん 水 防 除 事業	野依排水機場	144.2	平均	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1/20 確率	
			基準年	323	1.21	31	35.7	198	—	28.7	—	0.6	—	6.4	—		

3. 河川状況

(1) 河川状況

該当なし

(2) 洪水に関する被害状況

該当なし

第4節 道路概況

該当なし

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

項目	総数	農業	林業	漁業	鉱業	建設業	製造業	電気ガス 熱供給 水道業	運輸 通信業	卸売 小売業 飲食店	金融 保険業	不動 産業	サービ ス業	公務	その他	備考
市町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
豊橋市	(191,015) 188,007	(10,185) 9,560	(27) 18	(66) 70	(41) 38	(14,285) 13,192	(47,956) 51,253	(893) 847	(10,690) 10,755	(29,450) 27,355	(3,740) 3,373	(0) 2,563	(0) 60,252	(3,467) 3,594	(70,215) 5,137	
比率(%)	100.0	(5.3) 5.1	(0.0) 0.01	(0.0) 0.04	(0.0) 0.02	(7.5) 7.0	(25.1) 27.3	0.5	(5.6) 5.7	(15.5) 14.5	(2.0) 1.8	(0.0) 1.4	(0.0) 32.0	(1.8) 1.9	(36.7) 2.7	

(第62次東海農林水産統計年報)

出典：令和2年国勢調査

2. 経営耕地広狭別農家数及び主副業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村名	農家総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家数(戸)										自給的 農家	1戸当たり平均 農用地面積(ha)						主副業別 農家数(戸)			備 考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 ha 以上		田	畑	樹園地	小計	草地	計	主業	準主業	副業	
豊橋市	5,514	126	590	1,320	757	377	403	230	89	9	10	1,603	0.58	0.98	0.61	2.17	1.74	3.91	1,791	851	1,269	
比率(%)	100	2	11	24	14	7	7	4	2	0	0	29	15	25	15	55	45	100	32	16	23	

(出典：2010年農林業センサス)

2. 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表-2)

市町村名	農 業 經 營 體 數 (經營體)	經營耕地広狭別農業經營體數(經營體)										1經營體当たり平均 農用地面積(ha)					備 考
		0.3 ha 未滿	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 ha 以上	田	畑	樹園地	草地		
豊橋市	2,741	305	448	819	422	213	233	181	94	12	14	0.9	1.2	0.6	1.7		
比率(%)	100	11.1	16.4	29.9	15.4	7.8	8.5	6.6	3.4	0.4	0.5	20.5	27.3	13.6	38.6		

出典：2020年農林業センサス

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具								主要家畜								備考
	動力耕運機		動力防除機		動力田植機		コンバイン		乳用牛		肉用牛		豚		家さん		
	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営体数 (経営体)	
豊橋市	4,676	3,331	-	-	1,786	1,762	540	515	6,393	73	9,397	79	56,172	40	6,731	10	
100経営体 当り数量 (台、頭、 100羽)	140		-		101		105		8,758		11,895		140,430		67,310		
利用経営体数 割合 (%)	60		-		32		10										

出典:動力農機具_愛知県統計課HP平成27年度刊統計年鑑、主要家畜_2010年農林業センサス

3. 主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	主要家畜								備考
	乳用牛		肉用牛		豚		家さん		
	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営体数 (経営体)	
豊橋市	2, 093	34	4, 772	44	34, 430	18	8, 493	6	「X」は秘密保護上統計数 値を公表しないもの。
100経営体 当り数量 (頭、100羽)	6, 156		10, 845		191, 278		141, 550		
飼養経営体数 割合(%)	1. 2		1. 6		0. 7		0. 2		

出典:2020年農林業センサス

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名	豊 橋 市	作付割合 (%)	備考
総耕地面積 (ha)	(5, 608) 4, 163		
区分 作物名	作付面積 (ha)		
水稲	(1, 454) 1, 145	(29) 30	「－」は、事実のないもの。 「X」は、秘密保持のため公表されていないもの。
麦類	(62) 21	1	
雑穀	1	0	
いも類	(30) 9	(1) 0	
豆類	(17) X	(1) X	
工芸作物	(163) X	(3) X	
野菜類	(2, 451) 2, 094	(49) 55	
果樹類	(653) 360	(13) 9	
花き類・花木	(110) 53	1	
その他の作物	(34) 145	(1) 4	
計	(4, 976) 3, 828	100	

(2010)

出典:2020年農林業センサス

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農家			土地			主要作物			主要家畜			動力農機具			地域 指定等	備考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A		
1 変 化 の 状 況 (C年を 指数)	総農家数	93	81	耕 地	100	88	水 稻	96	82	乳用牛	100	92	自動耕うん機	49	44	農振地域 昭和45年9月 農用地計画 昭和45年11月	A:平成27年 (2015) B:平成22年 (2010) C:平成17年 (2005) 土地、主要作物、 主要家畜 ：農林業センサス 動力農機具 ：愛知県統計年鑑
	主業農家数	85	72	田	98	84	麦 類	40	19	肉用牛	114	103	動力田植機	80	67		
	準主業農家数	93	65	畑	102	93	野 菜	—※	—※	豚	94	97	防 除 機	100	100		
	副業的農家数	98	102	樹園地	—※	—※	果 樹	—※	—※	採卵鶏	98	93	コンバイン	48	58		
	農業従業者数	65	56	牧草地	—※	—※	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
変 化 の 理 由	本地域は、都市化の影響で、農家数及び農業従事者数とも減少傾向にある。特に、核家族化が進み、兼業農家および農業従事者数が激減している。			耕地全体では微減している中、収穫単価の安い田については減少傾向にあり、収穫単価は高いが手間のかかる畑も減少傾向にある。			穀物類は減少傾向が見られる。また、農家数の減少に伴い、稲作転換の作物に収穫単価の高い野菜、果樹に移る傾向が見られる。			乳用牛については、飼育従事者の高齢化や後継者不足等による小規模農家の廃業・撤退等により減少傾向にある。 肉用牛については、一時期増えたが、同様の理由および、牛肉輸入の自由化の進展による市場環境の変化等により、やや減少傾向にある。 採卵鶏については、鳥インフルエンザの影響で激減した。その反動により豚については、減少傾向から少し戻しつつある。			防除機を除き、農家数の減少に伴い農機具の所有台数は減少傾向にある。			※秘密保持のため公表されていないことから、「—」とした。	

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農業経営体			土地			主要作物			主要家畜			地域 指定等	備考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
1 変 化 の 状 況 （C年を 指数）	農業経営体	86	67	耕 地	88	71	水 稻	84	79	乳用牛	69	33	農振地域 昭和45年9月 農用地計画 昭和45年11月	A:令和2年 （ 2020 ） B:平成27年 （ 2015 ） C:平成22年 （ 2010 ）
	個人経営体	88	67	田	85	74	麦 類	X	X	肉用牛	77	51		
	団体経営体 （法人）数	72	120	畑	91	70	野菜類	X	85	豚	73	61		
	団体経営体 （非法人）数	—	—	樹園地	80	67	果樹	X	X	採卵鶏	148	126		
				牧草地	52	50								
変 化 の 理 由	本地域は、農業者の高齢化と後継者不足および都市化の影響で、農業経営体数及び個人経営体数とも減少傾向にある。団体経営体（法人）数については一時減少したものの、個人経営体の法人化等により増加傾向にある。			農業経営体の減少および都市化に伴い、耕地全体では減少傾向にあり田、畑についても減少している。樹園地、牧草地についても同様に減少傾向にある。			水稻および野菜類については、農家数の減少に伴い、減少している。			乳用牛、肉用牛、豚については、飼育従事者の高齢化や後継者不足等による小規模農家の廃業・撤退等により減少傾向にある。 採卵鶏については、鳥インフルエンザの影響で減少した反動により、一時大幅に増加しているものの、やや減少傾向にある。			「X」は秘密保護上統計数値を公表しないもの 「—」は調査は行なったが事実のないもの。	

第6節 地域環境の概況

豊橋市地内における環境への配慮項目は次のとおりである。

1. 特に配慮すべき生物環境

湿地性のシラタマホシクサ、ミカワバイケイソウ、ミカワシオガマ、トウカイコモウセンゴケなど植生が見られるとともに、ハッチョウトンボや水生昆虫のヒメタイコウチなども生息している。また、植生自然度の観点からは、太平洋岸に広がる海岸林と、東部丘陵地域の中に存在するカシ林がある。動物では、太平洋岸一帯がアカウミガメの産卵地となっていることは有名である。山地の森林にはオオタカ、アカゲラ、キビタキ、アオバズク、などの鳥類が生息している。

2. 特に配慮すべき生物以外のもの(景観・文化財他)

大規模な農地開発が行われた広大な農業地帯で、豊かな自然環境を保有している。文化財的にも東海道五十三次の宿場町として栄えた二川宿本陣が残っている。市内には3つの大学や総合動植物公園、自然史博物館、美術博物館、地下資源館などがあり、路面電車とともに地域の文化を形成している。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要旨

本地区は、県営たん水防除事業梅田川地区（S45～53）により、昭和52年に野依排水機場が設置され排水施設能力が強化され地区内の排水対策が確立された。しかしながら、経年劣化に起因する排水機の機能低下によって、既存の排水施設では排水能力に不足が生じている。その結果排水状況が悪化し、農地・農業用施設等に年々たん水被害が顕在化してきている。

この被害を防除するため、たん水防除事業の計画樹立を行い、排水機場の更新を実施して、農業経営の安定と県民生活の安心・安全を図る。

2. 事業別面積

（第8表）

事業名 土地 利用区分	たん水防除事業					計 (ha)	
	水田	普通畑	牧草地	果樹園	その他		
事業目的	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)		
たん水被害防止	28.7	0.6	—	—	6.4	35.7	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

たん水被害を防止し、農業経営の安定を期す。

2. 土地利用区分

（第9表-1）

事業名	土地利用 区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
たん水防除 事業	現況	28.7	0.6	—	—	—	—	29.3	—	—	6.4	35.7	
	計画	28.7	0.6	—	—	—	—	29.3	—	—	6.4	35.7	

3. 作付け方式

該当なし

4. 生産計画

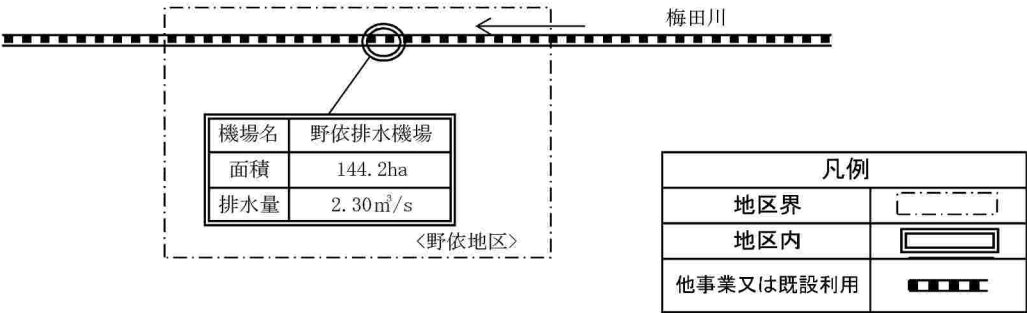
該当なし

- 5. 労働改善計画 該当なし
- 6. 級地別土地利用区分 該当なし
- 7. 土地配分計画 該当なし

第3節 用水計画 該当なし

第4節 排水計画

- 1. 計画基準雨量 3日連続雨量 323mm(1/20確率)
- 2. 計画排水方式 排水方式………自然排水、機械排水併用
許容たん水………たん水深30cm以上のたん水時間が24時間以内
- 3. 計画排水系統



4. 計画排水量 (第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積(ha)			流域面積		基準 雨量	降雨による 直接単位 流出量		基底流出量		全排水量(m³/s)			単位排水量		備考	
	事業名			(km²)			(m³/s/km²)		(m³/s/km²)		山地	平地		(m³/s/km²)			
	たん水防除 事業	—	計	山地	平地		(mm)	山地	平地	山地		平地	自然排水	機械排水	山地		平地
梅田川	35.7	—	35.7	—	1.44	323	—	7.13	—	0.10	—	—	2.30	—	1.60		

5. 排水対策

(1) 排水水門

(第11表-2)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積(ha)			計画排水量		排水本川			備考
		事業名			排水量 (m ³ /S)	地区内 たん水深(m)	名称	計画 洪水量 (m ³ /S)	計画高水位 (m)	
		たん水防除 事業	—	計						
野依排水機場	1.44	35.7	—	35.7	2.30	1.21	梅田川	610	3.49	

(2) 排水機

(第11表-3)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積(ha)			計画排水量		排水機				備考
		事業名			排水量 (m ³ /s)	地区内 たん水深 (m)	実揚程 (m)	排水量 (m ³ /s)	台数 (台)	全排水量 (m ³ /s)	
		たん水防除 事業	—	計							
野依	1.44	35.7	—	35.7	2.30	1.21	1.80	1.15	1	2.30	
							1.80	1.15	1		

(3) 排水路

該当なし

(4) その他

該当なし

6. たん水検討

たん水検討を行なった結果は次表のとおりである。

区 分		基準田面標高 (m)	許容たん水深 (m)	許容たん水深以上 たん水時間 (hr)	最大たん水深 (m)	最大たん水面積 (ha)	備 考
野依	現 況	0.50	0.30	31.1	1.21	35.7	
	計 画	0.50	0.30	22.0	0.93	27.4	

第5節 道路計画

該当なし

第6節 農用地造成計画 該当なし

第7節 洪水調整計画 該当なし

第8節 干拓計画 該当なし

第9節 農用地整備計画 該当なし

第10節 老朽ため池改修計画 該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設 該当なし

第2節 排水施設

1. 排水水門

(第18表－1)

項目 名称	位置	型式	構造	内水位 (m)	外水位 (m)	排水量 (m^3/s)	備考
野依排水機場	豊橋市	スライド+スイング	1.30m×1.30m				

2. 排水機

(第18表－2)

項目 名称	位置	排水量 (m^3/s)	揚程(m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	出力 (kw)	台数 (台)	
野依	豊橋市	1.15	2.40	1.80	横軸斜流	φ800	1	エンジン	38	1	
		1.15	2.40	1.80	横軸斜流	φ800	1	モーター	37	1	
計		2.30					2			2	

3. 排水路 該当なし

- 4. その他排水施設 該当なし
- 第3節 道路及び索道 該当なし
- 第4節 農用地造成 該当なし
- 第5節 洪水調整施設 該当なし
- 第6節 干拓施設 該当なし
- 第7節 農用地整備施設 該当なし
- 第8節 老朽ため池改修施設 該当なし

第6章 附帯工事計画

用地買収及び補償費(排水機場設置)

(1) 用地買収

排水機場.....1,800㎡(地目:田)

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工期

着 手 平成29年度

(平成35)
完了予定 令和10年度(予定)

2. 工事の年度割予定

年度 工種	平成29年度	平成30年度	(平成31) 令和元年度	(平成32) 令和2年度	(平成33) 令和3年度	(平成34) 令和4年度	(平成35) 令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	備 考
たん水防除事業	()												

第8章 環境との調和への配慮

1. 配慮の対象
- 本地区は豊川用水を水源とした農業地帯である。また、豊橋市田園環境整備マスタープランにおいては配慮区域となっており、機場周辺に生息する魚類等を対象とする。
2. 配慮の考え方
- 地区周辺の生物の生息環境の障害にならないように、施工期間中は、濁水流出防止対策を行うとともに、低騒音・低振動・排出ガス対策型の建設機械を使用することにより、影響を極力軽減する。また、排水路、遊水池には魚類も生息しているため、仮締切時には一時的に捕獲・移動するとともに、工事現場へ近づかないようにネットを張るなどの対策を行うなどして、影響を軽減する。

第9章 換地計画の概要 該当なし

第10章 事業費の総額及び内訳 (第26表)

事業名		たん水防除事業	備 考
区 分			
事業費 ※1)		(930,000) 1,447,000 千円	
事務的経費 ※2)		(65,000) 72,000 千円	
計		(995,000) 1,519,000 千円	
(関連参考事業)	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	

(平成28)

(8)

令和6年度単価。消費税については10%にて算定(但し、物価変動により将来変動することがある。)

※1) 事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2) 事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第11章 効用

(第27表)

事業名	項 目	年総効果(便益)額(千円)	年総増加農業所得額(千円)	備 考
	区 分			
たん水防除事業	作物生産効果	(23,774) 22,160	(25,061) 22,065	排水機場の改修による作物の被害防止
	維持管理費節減効果	(▲637) ▲742	(136) 172	排水機場の改修に伴う施設の維持管理費の節減
	災害防止効果(農業関係資産)	(58,587) 73,132	(58,587) 26,420	排水機場の改修による農地および農業施設の被害防止
	災害防止効果(一般資産)	(4,679) 6,833	—	排水機場の改修による一般資産の被害防止
	災害防止効果(公共資産)	(485) 606	—	
	景観・環境保全効果	—	—	
	国産農産物安定供給効果	(2,959) 3,366	—	排水機場の改修による国産農産物の安定供給の維持
	関連効果	—	—	
	計	(89,847) 105,355	(83,784) 48,657	(1,730,804) 総便益額 2,791,330 千円

(参考)	① 当該事業費:	(784,063) 1,649,164 千円
	② その他費用:	(565,296) 685,942 千円
	③ 総事業費:	(1,349,359) 2,335,106 千円
	④ 年償還額:	— 千円
	④' うち機能向上分	— 千円
	⑤ 年総効果(便益)額:	(89,847) 105,355 千円
	⑥ 現況年総農業所得額:	(35,985) 28,787 千円
	⑦ 年総増加農業所得額:	(83,784) 48,657 千円
	⑧ 総便益額(現在価値化):	(1,730,804) 2,791,330 千円
	評価期間:	(47) 52 年
	割引率:	0.04
		(1.28)
	⑨ 総費用総便益比=⑧÷③=	1.19 >1.0
	⑩ 総所得償還率 =④÷⑥=	— ≤0.2
	⑪ 増加所得償還率=④'÷⑦=	— ≤0.4

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画平面図

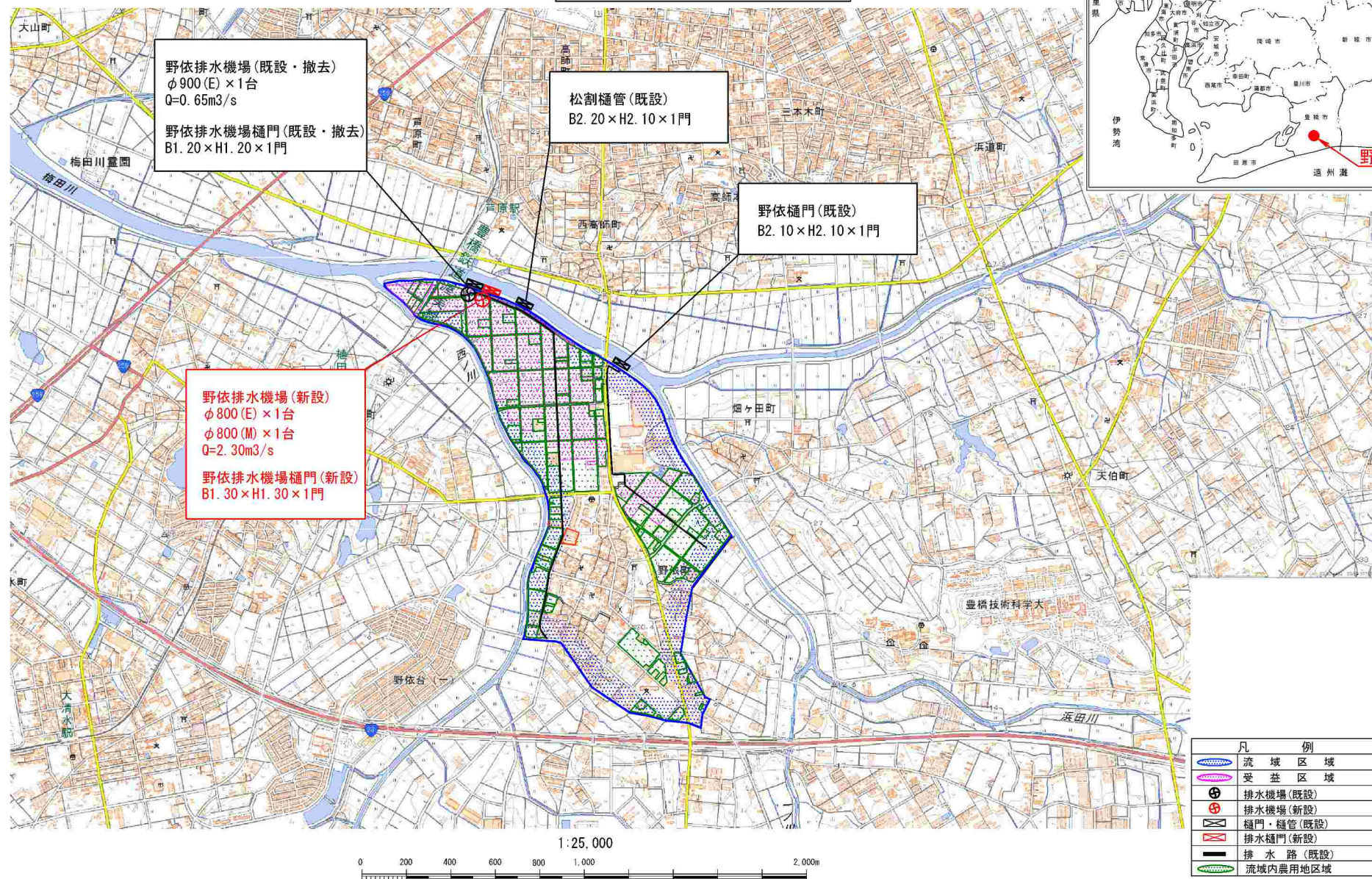
1. 現況計画平面図(別 添)
2. 主要構造図(別 添)

たん水防除事業 野依地区 現況計画平面図

(変更なし)

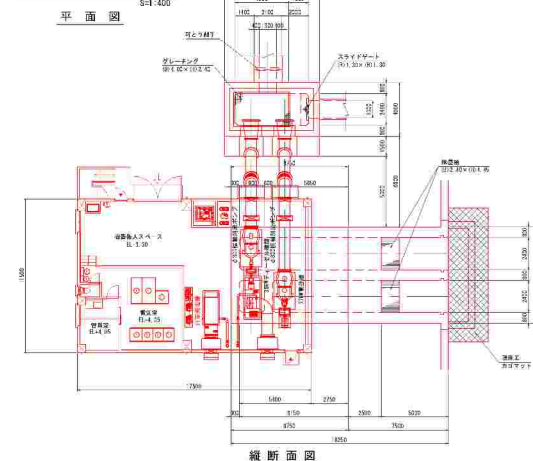
所在地：愛知県豊橋市

S=1:25,000



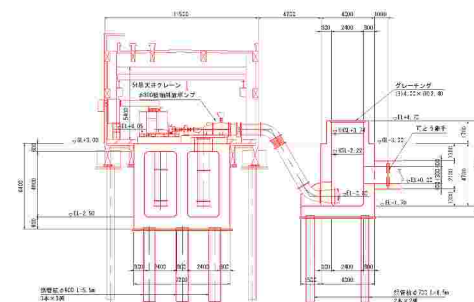
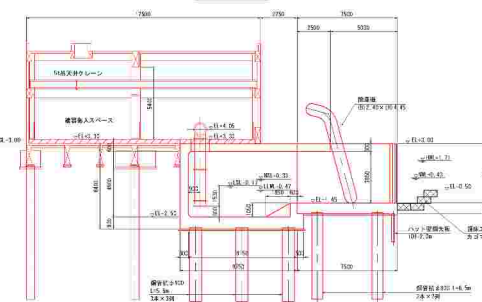
(変更後)

排水機場計画一般図



縱斷面圖

横断面图



縱斷圖

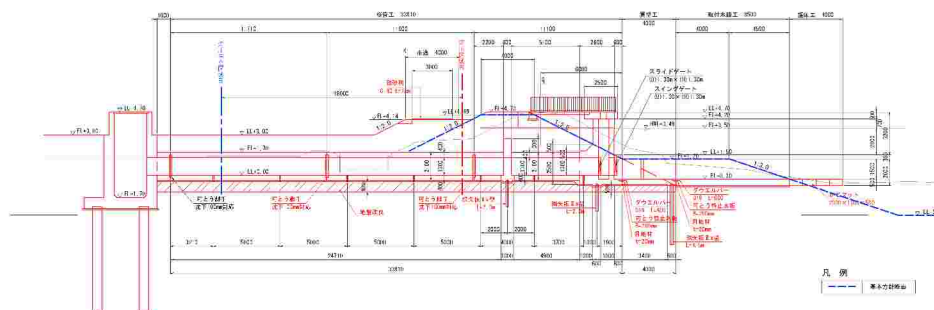
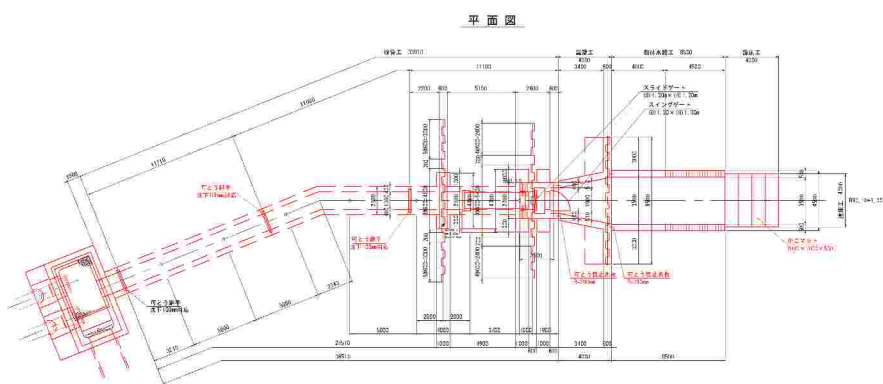


図 面 の 名 称	図面番号
-----------	------

縮尺	図示
	平成 年 月 日終了

測 量	平成 年 月 日終了

設 計	
-----	--

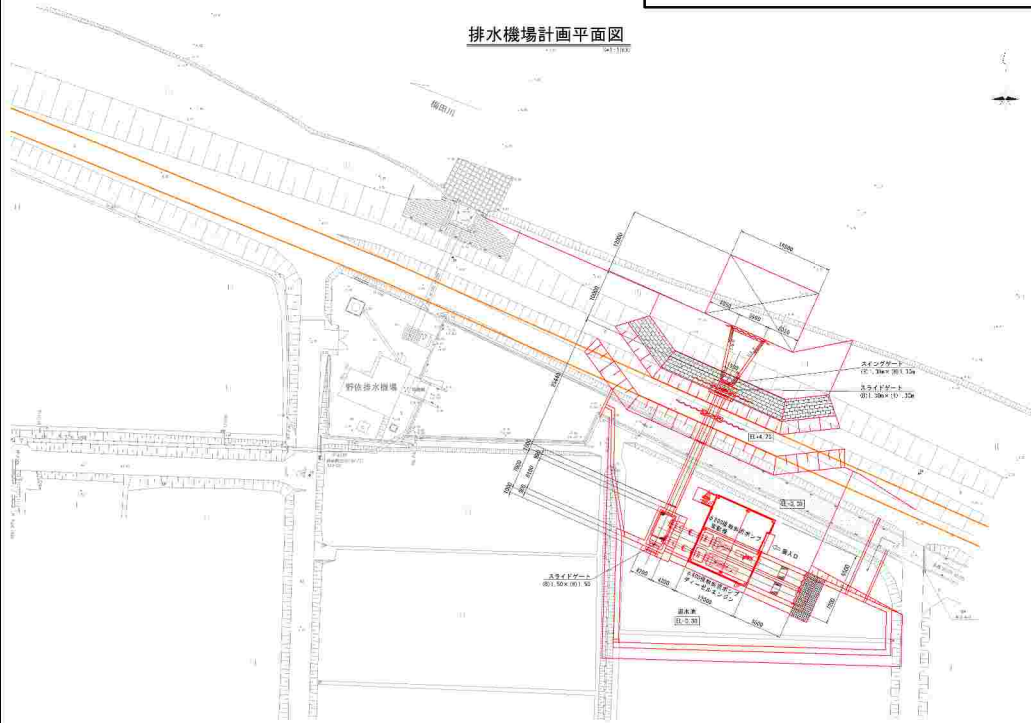
製 原 因	
-------	--

表 图	原 图	
	描 写	

たん水防除事業 野依地区 主要構造図

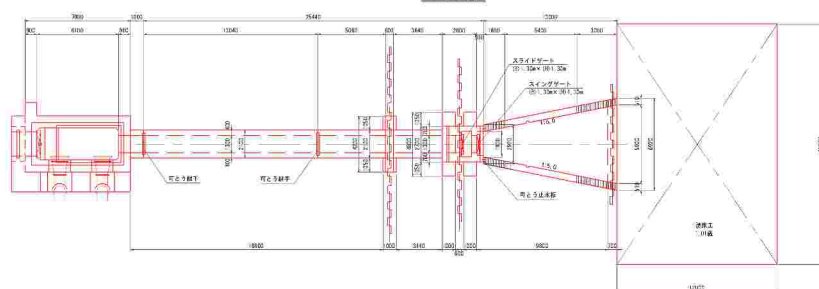
(変更前)

排水機場計画平面図

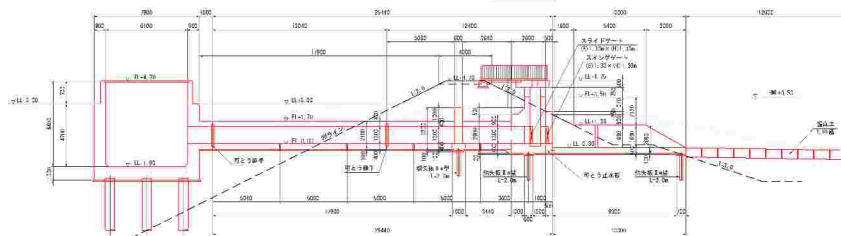


樋管計画一般図

平面図

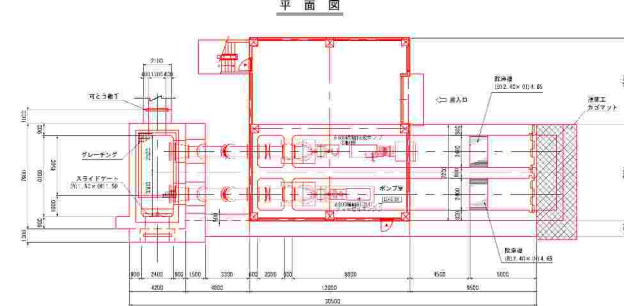


縦断面図

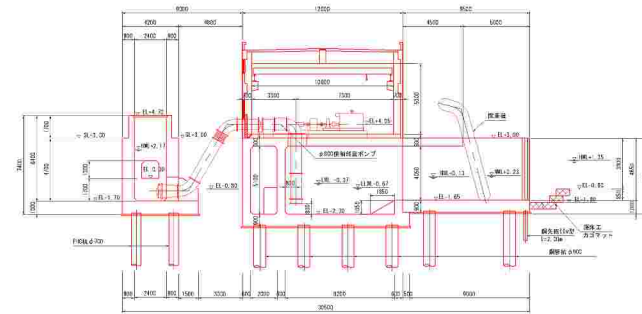


排水機場計画一般図

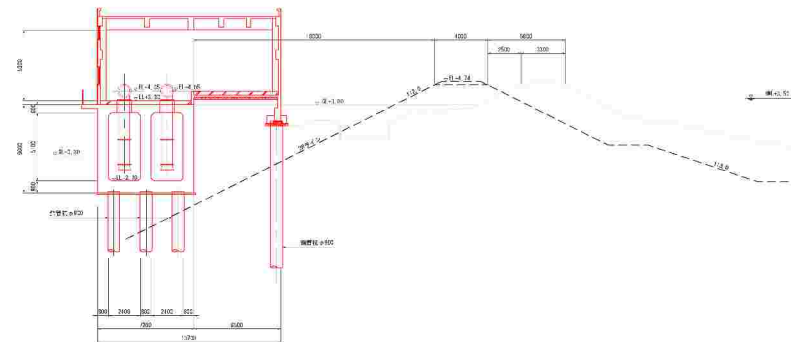
平面図



縦断面図



断面図



たん水防除事業 野依地区
野依排水機場

図面の名称	図面番号
たん水防除事業 野依地区 主要構造図 (変更前)	
縮尺	図示
測量	平成 年 月 日終了
設計	
製図	
図写	